

CONTENTS

## 特集 国語を考える

- 巻頭言 10 国語の大切さ ● 清水 司
- 論文 12 国語の重要性について ● 藤原正彦
- 座談会 16 現代社会と言葉遣い  
(出席者) 甲斐睦朗 / 松岡和子 / 小池 保 / 鳥飼玖美子 / (司会) 小池啓三郎
- 報告 26 国語に関する国民の意識 ● 文化庁文化部国語課
- 論文 30 やまと言葉の豊かさ ● 中西 進
- エッセイ 34 「美しい日本語」を取り戻すための私の処方箋 ● 春風亭小朝
- インタビュー 36 幼児期からの言葉のしつけが日本人の心をはぐくむ ● 野村与十郎
- 事例紹介 38 「未来をひらく子供」に正しく美しい言葉を ● 浜松市立曳馬中学校
- 論文 40 書けないとはどういうことか ● 樺島忠夫
- エッセイ 46 朗読あれこれ ● 久米 明
- インタビュー 48 私にとっての日本語 ● ダニエル・カール
- 報告 50 日本語教育の手法による日本語・日本文化への気づき ● 西尾珪子
- 解説 54 近年の国語施策 ● 文化庁文化部国語課

## 特別記事 失敗知識活用研究会の活動について

58 失敗知識活用研究会の活動について ● 科学技術・学術政策局基盤政策課

84 編集後記

82 鑑賞席

78 海外最新情報

76 レットライ!  
● 国立山口徳地少年自然の家

74 部活動わくわくプラン21  
● 複数校運動部活動の取組

72 科学技術のフロンティア  
● 海洋科学技術について

70 新しい科学技術の重点分野  
● 情報科学技術の研究開発の推進について

68 魅力ある教員を求めて  
● 新しい研修体系の構築

66 全国子どもプラン  
● 土曜日・夏休み専修学校体験学習

8 インフォメーション

6 であいふれあい ● 黛まどか

カラー

- 1 ところ・ひと  
● 東京都立小石川高等学校
- 表2 温故知新  
● 白水溜池堰堤水利施設
- 表3 温故知新  
● 臨界プラズマ実験装置 (JTF-60)

朗読は奥が深い。舌さえ廻れば難なく読めると高をくくっている人も居るが、聞く人に感動を与える朗読というものはそうやすやすと出来るものではない。

## 初

心者はすぐ声を出して読みはじめ、何が書いてあるか納得してもしないのに文字を追いかける。いい声を出そう、歯切れよく読もうと腐心する。どう読むかの前に、何を、何故読むかを理解することだ。声を出す前に読む心をつくるのが大切なのだ。

一昔前の稽古メモが出てきた。終戦直後、芝居の勉強を始めた頃の粗末なノート。その初めに恩師山本安英さんから出されたダメ出しが列記してある。「内容を読みあらわすこと——口先だけでなく内から湧き上げるものを大切に——一本調子で序破急がない——ナマリが多い、語尾が消える——」などなど。

全て基本的なことでも半世紀経った今でも耳が痛い。山本さんは手軽に朗読することを戒め、我流に走るのを許さなかった。格調を重んじ、魅力ある個性はおのずからあらわれると説いた。

当時放送はNHKラジオだけ、朗読の時間は大きなウエイトを占めていた。山本さんは常連で、生放送にも幾度かお伴

## エッセイ

俳優

久米 明



くめ・あきら 1924年、東京生れ。ぶどうの会を経て劇団昴所屬。舞台は「セールスマンの死」のウィリー・ローマンなど。テレビはNTV「すばらしい世界旅行」のナレーターなど。紫綬褒章、勲四等旭日章受章。

した。その頃徳川夢声さんが放送界でも異彩を放っていた。間の素晴らしさから「マ術」と称えられた夢声老の朗読は、吉川英治作『宮本武蔵』の名調子で今も語り継がれている。

一九四九年夢声さんは『話術』を著した。その中でこう喝破している。

「ハナシほど楽に出来るものなし——ハナシほど骨の折れるものなし——」

話術においては共に真理なり——」  
この骨の折れる仕事を支える根本条件は、人間性が豊かで、個性の輝きをもつこと、それによつてはじめて聞き手の信頼を勝ち得ると述べている。日夜己を鍛える厳しさがなければ、心を打つハナシは不可能というのが結論だ。

山本さんは初の新劇女優、夢声さんは時代の先端を行く活動弁士として名を挙げた。コトバの機微を日夜観客と触れ合う修練の中からつかみとった。客の心に響く話術は小手先や付け焼刃でごまかせるものではないことを知った。本格の巧みな話術は我が国の伝統芸能の中に脈々と生きている。能も歌舞伎も見事な抑揚とリズムカルな調子で人の心を打つ。また古典落語の鮮やかな語り口は誰の耳をも楽しませる。いずれの古典芸能もコト

バの宝庫だ。身をもって知るその高さとお深さの継承の上に現代の話芸の発展があると御両所は信じて、夫々の芸をつくり上げた。その道は今も生きつづけている。

「言葉」には知的に伝える面と情緒に訴える面と二つの働きがある。日常会話では見たまま思った通りを喋るが、上手下手はともあれ思いは伝わる。感情もよく分かる。だが、ドラマの役者は作者の書いたセリフを口にするので、セリフの中に隠されたイメージを充分把握して言わないと意味も伝わらず、感情も湧かない。道順を教えるときは相手の脳裏に正確な地図が浮かぶように説明する。それと同じく正確なイメージに基づいて発信されるコトバでなければ聞く人の理解も共感も得られない。相手の耳にはなく、目に語れといわれる。目の奥にある心のスクリーンに情景を描き出すのが話というものだ。話芸の基本はここにある。感情豊かに正しい表現をするのが演者の腕の見せ所、朗読の生命はここに掛かっている。朗読は一人芸だ。本をただ読み上げるのでなく、内容を自分のものとして物語る芸だ。観客と直接向かい合い、目の前の客席の反応を肌で感じながら、その振

## 朗読あれこれ

幅を糧としてコトバを操っていく。芝居の場合は舞台の上で共演者とセリフを交わしてドラマの世界をつくり、観客は客席でそれを楽しむ。客席の反応を感じても、それに応じて舞台の進行を勝手に変更することは許されない。あくまで役としてドラマの世界に徹しなければならぬ。

**朗** 読の場合は演者であると同時に冷静にそれを視る演出者としての醒めた目が必要だ。それが朗読の流れをコントロールする。出来如何はまさにこの舵取りの呼吸に掛かっている。それを会得する唯一の方法は観客の前に真剣勝負を挑むこと、本番の経験を重ねることだ。しかし客を前にすると、つい媚を売ったり受けを狙ったりしがちなので自戒が肝要だ。聞き手に受けようなどと不遜な欲を出さず誠実に物語ることだ。評価はおのずからついてくる。

時代とともに朗読のスタイルも変わってくるだろう。今や映像の時代、身近にバーチャル体験があり、複製文化も手軽に楽しめる。ひとりに閉じこもる社会では無言化の傾向も強まろう。だからこそ今、語り手と聞き手の間に真実の温もりを交わす朗読の力が見直され、再評価されるべきではなからうか。

特集

# 21世紀の 科学技術革命、 産業革命を 目指して ナノテクノロジーの推進

●巻頭言  
二一世紀の科学技術革命、産業革命を目指して——岸 輝雄

●座談会  
二一世紀の科学技術革命、産業革命を目指すためのナノテクノロジーの夢

門村幸夜／川合知二／北澤宏一／  
横山直樹／藤嶋信夫

●事例紹介

物質・材料研究機構／岡崎国立共同研究機構／理化学研究所／名城大学／東北大学／N E Cソリユーションズ／東京工業大学／松下電器産業㈱／東京大学

とろろ・ひと  
であい・ふれあい

下鴨神社  
丘みつ子

## 編集後記

▽梅雨があけたと思つたら、連日記録的な猛暑が続き、各地で体温以上の気温となり、勤務を終えて家に帰るとグッタリしてしまふ日が続いています。官庁街の植込みもそれこそ元気がなく、一雨も二雨もほしいところですし、このままで行くと、この夏の水不足が心配されます。

▽日頃、忙しくて家庭サービスが出来ないでいるお父さん、子どもが夏休み期間中、小旅行などいかがですか。家族旅行によく行く子どももほど、最近流行の「きれ」ことが無いというのを聞いたことがあります。▽さて、今月の特集は、「国語を考え

る」です。国語の重要性について、「言葉遣いの大切さ」、「文章表現力の大切さ」、「正しい話し方」、「美しい言葉」等を、座談会、論文、エッセイ、インタビュー等で紹介しました。国語は我が国の文化の基礎を成す大切な物です。日頃、何気なく話している言葉、書いている文書など、もう一度見直してみたいかががでしようか。

▽甲子園球場で高校球児の熱い戦いが始まります。郷土の高校の応援に力が入るところです。夏バテに気を付け、この暑い夏を乗り切りたいものです。(H・N)

「読者からのたより」欄への投稿、「文部科学時報読者アンケート」を歓迎します。本誌を読んだ感想、御意見等をお寄せください。

●「読者からのたより」投稿規定  
①1件につき400字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈  
※文章を一部手直しさせていただくことがあります。  
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2  
文部科学省大臣官房政策課「文部科学時報」編集部  
※電子メールでも受け付けております。  
●「文部科学時報読者アンケート」  
文部科学時報読者アンケートは添付のものがきのほかに電子メールでも受け付けております。  
宛先名「jih@next.go.jp」

### コンピュータネットワークを利用した文教行政の広報

文部科学省では、我が国の文教施策等を広く皆様に紹介するため、インターネットホームページを利用して情報を提供しています。また、子どもホームページを設け、情報を提供しています。  
ホームページアドレス：  
<http://www.next.go.jp/>(半角入力)  
子どもホームページアドレス：  
<http://www.next.go.jp/kodomo/index.htm>

●著作権所有——文部科学省◎  
●発行所——株式会社 ぎょうせい  
本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12  
本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16  
電話 03-5349-6666(営業部)  
URL <http://www.gyosei.co.jp>  
●印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成13年8月10日印刷  
平成13年8月10日発行  
定価610円 本体581円(〒84円)  
年間購読料7,320円  
・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。  
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。